

卒後藤谷塾 議事録

開催日時:平成 30 年 5 月 9 日(水)7:00~8:00 場所:テレビ会議

I. 活動報告

1. A

病棟に所属し、週一回の救急外来で勤務をしている
患者の身体診察、アセスメント、プランを考え、指導医に報告、介入している
認定看護師業務と兼務しており、癌の告知など病状説明に立ち会っているため、
活動時間が取れないこともある

2. B

整形外科に所属しており、手術に助手として入っている
多職種との関わりもうまくできている
内科の知識を、現在の状況で活かしている

3. C

内科に所属しており、今後訪問診療開始予定
訪問診療担当の医師と立ち上げの準備をしている

4. D

救急外来で初期対応を行っている
内科医師の担当患者を一緒に管理している
院内でも理解を得られて、スムーズに活動できている

5. E

脳外科所属し、NP 筑井さんと病棟管理を行っている
脳外科患者の内科的なプロブレムに対して介入中
特定行為について理解を得る医師が増えている

6. F

循環器科で研修中
担当患者 3 名のマネージメントを指導医に教わりながら行っている

7. G

混合病棟で夜勤を行いながら、日勤の時に活動している
患者の身体診察を行い、医師へ報告をしている
今後の活動について、看護部長が交代したため面接を行った
当面は、現状のまま活動する予定

8. H

看護師不足のため、病棟で看護業務を行っている
日常の業務の中で血液ガス検査を頼まれて行っている
5月から総合内科の医師が来て整備を行っており、今後、特定行為臨床研修は7
月から復帰予定

9. I

救急科で研修中
先月まで外科の研修であったため、外科系患者については初期対応を行って
いる
内科は研修医が優先的に介入している

10. J

救急科で研修中
初期対応を指導医と行っている

11. K

ICU 所属
午前中は、ICU 患者の回診や処置を指導医とともに行っている
午後は一人で RRS 回診を行い、呼吸、循環などが不安定な患者の他に発熱、電
解質異常がある患者に対して介入している

II. 症例報告

1. 症例

意識障害、発熱により RRS 介入した一例

AVR 術後、人工呼吸器離脱困難となり気管切開術実施後、リハビリ中
一般病棟入院中 80 代女性

2. 藤谷医師からのコメント

患者のデータから腎結石、尿管結石を作りやすい状況であった

血尿を認めたことで、感染だけでなく、膀胱癌や腎癌も鑑別に入れる

膀胱鏡、細胞診、CT を行い鑑別を行っていく

患者の経過から敗血症性ショックではなく、循環血液量減少だけであった可能性もある